

ハートフル塩山広報委員会

は～とふる応援団



震災に想う

もし突然自分の家が跡形もなく、無くなっていたら…。どうなってしまったんだろうか。

今回の震災を受けて「当たり前」・「平凡」・「平穏」…それがどれだけ幸せなことかわかった。家があるし、家族がいて、仕事がある、友達がいる…本当にありがたい感じるようになった。

震災地に対する温かい言葉や取組みの中で、私たちも家族を大事にしながら、他の人達の為に少しでも役に立つ事をしていきたい。

直接何か出来るかどうかではなく、まずそういう気持ちを持ちたい。そして出来る事を一つ一つやっていきたい。

そう想う。
そういう行動を取る事だけは、迷わず続けていきたいと思う。

目次:

震災に想う	1
絵画とのかかわり 古屋晋さん	1
絵画とのかかわり 小宮山勝さん	2
エコボスター入選！	3
いま、わたしたちに できること！	3
ホットなボランティアさん 紹介	4
ホットな職員紹介	4

ふるや すすむ

絵画とのかかわり♪(古屋晋さん)



デイサービスをご利用している大正10年4月28日生まれ89歳の「古屋晋さん」は昔、絵で生計を立てていたそうです。「父親は画家であり兄も絵を描いていたし、私も描くことは嫌いではなかったので自然に絵を描いていたよ」と話してくれました。50歳頃までは横浜の厚木でお店を出して、米軍基地の外人さんに戦闘機の絵や肖像画を描いて売っていたそうです。

その後、妻と一緒に山梨に引っ越して来てからも絵は描き続けていたため、甲州市(旧塩山市)から奥野田小学校の歴代校長の肖像画や、100歳以上のお年寄りの肖像画の依頼があったそうです。

また、他にも趣味があり、最近までラジコン飛行機を組み立て、完成後はその飛行機を大空に飛ばして楽しんでいたそうです。

自転車に乗って近所を散歩したり、絵のことや飛行機のことを話される古屋さんを、相田みつをさんの言葉をお借りすると
「一生勉強 一生青春」ですね。

絵画とのかかわり♪(小宮山勝さん)



当事業所の訪問看護のサービスを受けられている昭和12年11月18日生まれ73歳「小宮山勝さん」は、絵画を通して人生を楽しんでいます。

「絵を描くと言っても、私の絵は我流で、先生と言える人は誰もいないし、誰にも影響されずに画家には負けない絵を描きたいと考えている。また画家に誉めてもらいたいなどとは思っていないし、賞状とか入選とかの誉め言葉もほしいとは思わない。それよりは自分の周りの人々に -あいつが絵を描くのか、おどろいた- くらいに知ってもらった方が数倍嬉しい」と話された小宮山さん。

ご自宅にお伺いしお話を伺ってきました。絵を描くきっかけは？

私が絵を描くことになったのは、山梨高校で以前校長であった弦間正友先生の影響である。先生の出展されてる絵の展覧会を見に行った時の事、彼の描いた絵の重々しさに感心させられ「うまいね」と言うと「昔やったんだから描けばいいじゃん」と返事が返って来た。

日川高校入学時に同級生三人で美術部に入ったが、一人はフランスへ留学して画家になり、もう一人は弦間先生で、そしてもう一人が私でした。二年生の時から進学という意味もあって絵をやめてしまい、空白の三十五年間を経て弦間先生に刺激を与えられたのがきっかけでした。



高校の時は水彩画しか知らなかったので、「ああやったらどうだろう、こうやったらどうなるか」苦しみもだえながらやっと仕上がってます。また、負けず嫌いも手伝って「へたなこと」はしておきたくない。先生は誰もいないと言ってしまったが、私は自分の信念として、絵を描く姿勢はそれで良いと思っています。人間八十年程の人生が終われば何もかも過去の藻屑の中に捨てられて、四十九日を境にこの世に有形で残れないことになっています。しかし、きちんとした絵を残しておけば二百年経っても、五百年経っても、その絵の画面上にこの私の生きているときの指のぬくもりが残って後々の人々に「小宮山勝」という人間が「生」を受けていたことになるのではないでしょうか。

今から命ある限り頑張って、最低でも三百枚くらいは残したいし、一作々々が恥ずかしいものでなく、ある絵はまるで写真のように、別の絵は荒々しいタッチでペイントし、又ある絵は静かな、おだやかな表情をもち、言い直せばそれぞれの絵の持っている雰囲気に合わせ描写し、又筆づかいもして自分の力量と考え方を表現したいと思っています。



いま、わたしたちにできること！

祝 入選♪



平成23年3月11日の地震！東北地震の大きさには驚きました。一日も早い復興を祈念し、現在（いま）も何かしらの苦労を強いられている人たちに明るい未来が訪れる事を祈っています。

自然は恐ろしい。この地震で日本はパニックであったと言えたのではないでしょうか。スーパーに行けば、食品は置いておらず、流通の混乱、交通網の遮断、計画的停電を伴って、現実に生活に迫ってきました。しかし、東北地域などから比べれば最小限の我慢であります。

自然とは、現代文明、科学を持ってしても未だ勝てるものではないのです。人は知らない間に自然や地球に優しくしていなかった。そんな自然が、そんな地球が我々に対する警鐘ではないでしょうか？いま、わたしたちが出来ることを大事にしていきましょう♪

財団法人山梨厚生会では環境のこと、今私たちができることとして省エネポスターコンクールを院内で募集しました。わたしたちになにができるだろう、必要なない照明は消灯する、エアコンの設定温度の調整、エアコンのフィルターの掃除をこまめにする、両面印刷にする、節水にこころがける等あげられました。写真右側の作品は、自分の身体をダイエットするように、環境にもダイエットさせようというイメージで。また左側の作品は、「やるじゃん！」という方言を使って、実行しようという意味の「やるじゃん！」と、すごいな～という意味の「やるじゃん！」というイメージでポスターを作製しました。

で…結果は…みごと優秀賞と佳作！

入選賞金のギフト券は、東日本大震災の義援金箱に入れ、職員からの善意の救援金も合わせて、財団法人山日YBS厚生文化事業団を通じて振込みました。



在宅介護サービスセンター
ハートフル塩山

各事業所へのお問合せは
〒404-0042
山梨県甲州市塩山上於曾1372

☆居宅介護支援センター
TEL 0553-33-8102

☆デイサービスセンター
TEL 0553-33-8101

☆訪問入浴サービス
TEL 0553-33-8101

☆ヘルパーステーション
TEL 0553-33-8103

☆訪問看護ステーション
TEL 0553-33-8103
・サテライト山梨厚生
TEL 0553-22-8806

ハートフル塩山広報委員会

〒404-0042
山梨県甲州市塩山上於曾1372
電話 0553 (33) 8101
Fax 0553 (33) 8100
Email jimu@heartfull-e.jp
広報委員
上野茂樹・岩波充宏・鈴木まゆみ
早川知子・山下純子

編集後記

3.11東日本大震災があり、ハートフル塩山でも今まで経験したことのない大きな揺れを感じました。私達職員は少々あたふたしていましたが、その時ご利用者の方々はというと…。さすが大先輩！！落ちています。長い人生、たくさんの経験をされてきただけあります。

今回の震災で私達は、避難訓練の重要性や、もしもの事態が起きた時の為に、家族や大切な人の連絡手段、避難先の再確認をするなど、改めて考えることが出来たと思います。

いま私達に出来ること、明るい未来の為にみんなで頑張りましょう。

広報委員：鈴木まゆみ

ホームページもご覧下さい。
<http://heartfull-e.jp>



な ボランティアさん紹介

えんざんりようむつみかい

「塩山理容睦会」

ご利用者が在宅で身体状況により、理容店・美容院に出向くことが困難な中で、デイサービスでは、介護保険のサービス提供時間外に出張訪問理容美容サービスを行っています。出張訪問理容美容サービスを行っていただいているのは「塩山理容睦会」さんです。

14～15名の組合会員の中から交替で出向いて、ご利用者の髪を綺麗にしてくれます。1日1人の時でも来てくれて、とてもご利用者から好評です。

睦会会長の田中さんは、「理容師免許があれば誰でも出張理容は出来ると思いがちですが、高齢者や障がい者を対象にする場合はそれなりの知識と気配りが必要です。また衛生管理には特段留意しています。理容業界でも高齢化時代に伴い、安心と快適な理容サービスを提供するための訪問福祉理容セミナーに参加したり、ケア理容師制度の推進・福祉理容への取組みを行っている」と話されました。



たなか よりお

理容タナカ(田中偉夫)さん -写真左-
塩山三日市場3423-4 TEL33-3198

いのうえ じろう
井上理容店(井上次郎)さん -写真右-
塩山上栗生野1158-10 TEL33-6056

ひらやま けい
平山理容所(平山桂)さん -写真中央-
塩山下於曾969 TEL33-2824



な 職員紹介

はやかわ ともこ

早川 知子 所属:ヘルパーステーション

平成22年10月に入職して8ヶ月になります。まだまだ勉強不足でご利用者に満足のいくサービス提供が出来ていませんが、先輩方に指導をいただきながら頑張っています。ご利用者からの「ありがとう」「また来てね」の言葉に励まされている今日この頃です。

長男(中3)が「オレも介護の仕事してみようかな~」と母親として嬉しい言葉が聞けた事にヘルパー2級を取得して良かったと感じています。これからも苦戦しながら楽しく仕事を頑張っていきたいと思っています。



ご意見、自主投稿をお待ちしています。

次号は平成24年1月発行の予定です。